

さんくす

発行:笠懸町第三区広報委員会

発行所:笠懸町第三区公民館

https://sannkusu-kasakake.com

sannkusu.kasakake@gmail.com

地域住民ら44人が荒神山で下草刈り

11月11日(土)、午前9時より一区、二区、三区行政区、公民館主催の荒神山柴刈りが実施されました。参加者は一区、二区、三区各種団体、農地と水・阿左美地域環境保全協議会、阿左美沼土地改良区の役員や交通指導員(二区)など44人が参加しました。

カタクリの東群生地と西の登山道やカタクリ西群生地の二手に分かれて下草刈りを実施しました(写真)。

コロナ禍で3年間実施されていなかったため、3年分の篠や雑草などが生い茂り荒れていましたが、刈払い機の効果で大変捗りました。約90分程で無事終了しました。

この行事は地域の人々が山に手を入れることで里山の環境保全や獣害対策として期待できます。今後も継続してほしいものです。



カタクリ生育に欠かせない下草刈り

ボートレース場で笠懸まつり開催



笠懸まつりが9月23日(土)に昨年同様ボートレース桐生にて開催されました。11時30分の開場前には、入口に長蛇の列が出来ていました。シカ肉のローストとシチューを提供したブースの賑わいが印象的でした。

三区からは、納涼祭からさらに上達した子ども八木節、踊りパレードの伴奏を務めた八木節愛好会が出演しました(写真)。

途中、降雨があり一部プログラムが室内に変更になりましたが、ボートの模擬レース・湖面花火等様々なプログラムが終了し、多くの来場者でにぎわいました。

三区のテントでは、区民の来場者へ飲料や子供にはお菓子を配布していましたが、知らなかったという方もおられるようです。

散歩道(26) 福祉障害センター

障害者福祉センターは、障害者を対象とした小規模通所授産施設及び重度心身障害者を対象としたデイサービスセンターとして2005(平成17)年7月に旧笠懸町で竣工し、管理運営先として旧笠懸町社会福祉協議会に委託して開所しました。

その後、小規模通所授産施設については事業内容や法制度の改正などで地域活動支援センターと名称が改まりました。

現在は主な活動として在宅の障害者が通所し、ホチキス針の箱詰めの仕事や、手作りマフィンの調理及び販売、朝顔の栽培、出荷ぬりえなどの創作的活動、福祉パレードや交流会などに参加し社会との交

流の促進事業を実施しています。

このような活動をとおして、障害者及びその家族の地域における生活を支援し、在宅の障害者の自立及び社会参加の促進を図るための施設です。

また、障害者デイサービスセンターでは、在宅15歳以上の在宅重度心身障害者の通所の場として心身障害者に養護、生活支援、日常動作訓練、食事、送迎入浴サービスを行い、心身障害者の地域生活を支援し介護を行う家族の負担軽減を目的としています。そして適切な援助を行う「相談支援センターつばさ」として多くの人を支えています。



東小入り口交差点の形状が大幅に変更 桐生伊勢崎線

主要地方道桐生伊勢崎線の笠懸東小学校入り口で進められている交差点工事で交差点の形状が大きく変わることが解りました(右図)。

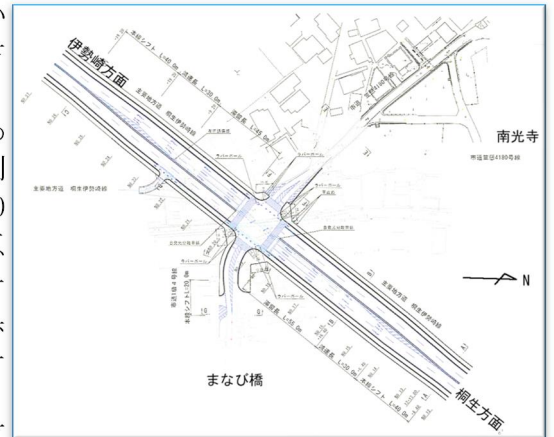
これまで、複数の道路が交差していたものが、県道と直角に交わる十字路となり、シンプルな形状となります。具体的には、南光寺西側の道路(市道笠懸4180号線)はこれまで交差点手前10メートルほどが一方通行だったものが県道付近で拡幅となり、一方通行が解除されます。

その一方で、南光寺東側の道路については交差点手前で通行止めとなります。これまでは県道から南光寺東側の道路に進入できましたが、今後は不可能となります。そのため南光寺西側の市道笠懸4180号線に車が集中することが予想されます。この市道はカーブが多く幅員も5メートル前後と広

くないことから、下山商店角の交差点などは新たな安全対策が求められるかも知れません。

県道交差点の工事は本年12月末頃に概ね工事が完了し、現在の通行止めが解除される見込みです。その後、県道南側部分の工事着手となります。

阿左美駅前の交差点から西側(伊勢崎方面)は4車線化のための工事が急ピッチで進められていますが、土木事務所では「工事が完了したところから逐次4車線化したい」としています。また、久宮までの区間は令和7年3月までに4車線化することを目指しています。



拡幅される市道

ベルク、事前協議を行わず

国道50号に面する桐生地方卸売市場の一部を利用して食品スーパーベルクを核とした複合店舗の出店計画が進んでいます。しかし、開発許可の申請前にあらかじめ開発行為に関する公共施設管理者の同意を得るための事前協議を行わないことがこのほど判明しました。

事業予定地は既に市場として利用していることなどから、開発地区外周アクセスへの取り付け道路や、排水路整備などの附帯工事などが基本的には不要なことなどから、事業を進める関東建設株式会社は「事前協議は必要ない」と判断したようです。

事業内容のみどり市に確認したところ、「ベルク以外にどのような企業が出店するのか解らない」また「建物の配置計画もできていないようだ」とのことで、地元説明会については「お願いはしているが回答がない」とのことでした。



ベルク出店予定地

敬老祝賀行事として記念品を配布

10月27日、第三区の敬老祝賀行事として、80歳以上の方の見守りを兼ねて商品券や菓子等を配布しました。今年度の対象者は205名、最高齢者は99歳でした。

行政区役員と民生委員で各家を訪問し、近況の確認やお身体の調子をお聞きするなどのお話をさせていただきました。

このような活動は家にこもりがちな方々にとっては多少の気分転換にもなりますので、来年以降も継続していただければと考えます。

令和5年特別区費協力事業所(順不同)

桐生卸売市場(株)、上毛バナナセンター(有)加工所、(有)サン・ビー・シー・群馬工場、岩瀬産業(株)桐生機工営業所、あざみん家、テクノオリジン(株)、くりた医院、はしづめ歯科医院、窪田縫製(有)、アライ・サンズ(有)笠懸第一工場、新井木工(有)笠懸工場、業務スーパーパスポート笠懸店、関東マツダ桐生かさかけ店、メンズプラザAOKI笠懸店、セブンイレブン桐生バイパス店、沼田屋タクシー(株)、TAX桐生店、あすからいふ倶楽部、東武観光(株)北関東営業所、稲川工業(有)、セリア、金子耳鼻咽喉科クリニック、フレッセイ、スシロー、ビッグマーチ桐生店、澤アパート、古室歯科クリニック、(株)創健社、忠兵衛茶屋(有)、桂建設(株)、グリーン歯科クリニック、東邦薬品(株)、萬家笠懸店、スズキ自販群馬(株)桐生営業所、志なの屋、かさかけメモリードホール

夏の全国高校野球 群馬大会で国歌独唱 三区在住 森田 莉史さん



7月8日(土)に行われた、第105回全国高等学校野球選手権記念群馬大会の開会式で、三区在住の高校3年生の森田莉史(もりたりひと)さんが国歌独唱をしました。

国歌独唱をした理由は、「学校に応募が来て

いたので、自分が選ばれて、あの舞台上に立てたら面白そうだな」と思って応募したそうです。選考審査会には、13校の20人が参加し、見事県代表に選ばれました。

開会式までの練習は、最初に野球部の全員の前で歌う機会を部活の顧問が作ってくれ、その後は体育館で全校生徒を前に歌っていたそうです。

開会式当日に国歌独唱を終えた感想を聞いたところ、「こんなに大勢の前で歌うのは初めてだったので、とても緊張しました。足が震えていたと思います。声を響かせることができるように、上を見て堂々と歌えました」と話していました。写真は凜とした立ち姿の森田さん。

第3区福祉部グラウンドゴルフ大会

福祉部主催のグラウンドゴルフ大会が、11月12日(日)午前9時からあすかホールグラウンドゴルフ場で行われました(写真)。

当日は肌寒い天候でしたが、多くの方の参加しました。



参加人数は38人(男性27人、女性11人)で今回も男女混合で行われました。栄えある優勝はスコア53(19アンダー)を達成した高野千歳さんでした。今回から採用されたハンデ戦でしたが、そのハンデをもろともしない圧巻の優勝でした。

大会主催者から「上位10人中、5人が女性だったことから今後も男女混合開催で行う予定」とのコメントがありました。

次回は2月4日(日)を予定しています。参加者40人以上を目指し広く参加者を募集していますので、興味のある方は是非参加してみてください。

育成会日帰りバス行事 56名参加

9月9日(土)、笠懸町第三区子ども育成会主催による、第11回目となる日帰りバス行事が行われました。この行事開催は保護者同伴の参加形式で、学習内容を取り入れて子どもと同時に親の交流を深めることを目的としています。

今年度は台風の接近ということもあり、直前まで開催可否の検討がされましたが、天気も好転し、屋外で体験できる内容を中心に無事開催となりました。

子ども31名、大人25名の合計56名の参加がありました。

栃木県にあるモビリティリゾートもてぎでは、往復561メートルもあるジップラインを体験したほか、巨大昆虫や自然に触れながらのアスレチックに挑戦しました。巨大昆虫に「きゃー！」と悲鳴をあげながらも、てっぺん目指して張り切って挑戦していました。



益子焼共販センターでは絵付け体験を行いました。焼きあがると灰色が青に、赤が茶へと色が変わると説明を受けた子どもたちは、完成図を想像しながら1時間集中して絵付けをしていました(写真)。

完成品は11月に各家庭に届くので、子どもたちのお楽しみが増えたようです。育成会役員は、子どもたちからは「楽しい1日だった!」「また行きたい」などの声を多く聞くことができたので、「来年度につなげていきたい」と話していました。

笠懸地域 こどもまつり

8月26日(土)、午前10時から笠懸公民館を会場にした第36回 笠懸地域こどもまつりが4年ぶりに開催されました。

三区からは、子ども育成会役員と子ども会役員がスタッフとして参加していました。開始時刻の前から、模擬店やゲームコーナーは順番待ちの列になっていました。

その中でもヨーヨーつり、スーパーボールすくい是最後尾が確認できない程の人気ぶりでした。多くの子どもたちは開催を楽しみにしていたようで、笑顔の溢れる姿を見ることができました。

さんくすがインターネットでも見られます

<https://sannkusu-kasakake.com> 右のQRコードを読み込んで下さい



笠懸東小学校、5年生が総合学習で稲刈り

10月11日(水)、秋晴れの中、午後2時から笠懸東小学校北側の水田4アールで、5年生71名と先生、保護者、地域協力者など18名によるモチ米苗の稲刈りと天日干しが行われました。

5年生の5、6時間目を使う総合学習の一環で、6月15日(木)の

田植えにつづいての作業でした。

鎌の使い方
の注意点を
確認後に生
徒と保護者
、地域協力
者が、稲を
結束して天
日干しの鉄
竿にかける
作業でした。



その後残っ

た稲は、地域協力者のバインダーで刈り取り結束され、約2時間の作業が無事に終了となりました。「今年は生育管理作業で雑草が異常に多く大変だった」と地域協力者数名から話が聞くことができました。

異常な暑さ、作物に影響も

この地域では今夏は記録的な暑さとなりました。特に気象庁桐生観測所(元宿町)では8月16日(水)に39.7℃と全国最高気温になり、また35℃以上の猛暑日数が46日で全国最多数と過去最多記録を更新しました。

25℃以上の夏日は7、8、9月の3か月連続で92日。事実上今夏、全国で一番暑い街となりました。

猛暑の影響は当地区の主力秋冬野菜であるホウレンソウやブロッコリーなどの発芽障害や活着不良、また病害虫被害など大幅な収量減となっています。

記録的な猛暑の影響は今後も動植物の生育や生態など多種多様な異変を生じるかもしれません。

気候変動により自然は[恵み]だけではなく時には大きな[災い]をもたらします。地球規模の気象災害が今年限りであることを願いつつ、来年の五穀豊穰に希望を託したいと思います。

子ども育成会 資源ごみ回収

三区育成会活動の一環として、資源ゴミ回収を今年度も3回の開催を予定しています。

第2回目は11月19日(日)に開催されましたが、収入金額については次号にてお知らせします。育成会の山澤会長は、「区民皆様のご協力に感謝し、収入金は育成会行事活動の財源として、三区の子ども達のために有効活用したい」と話していました。

第3回目は次のとおり予定。開催日が決定しましたら、詳細は回覧板にてご案内します。

開催日時:令和6年2月18日(日)9:00~11:00

開催場所:三区公民館 内容品:新聞紙、雑誌、ダンボール、アルミ缶、スチール缶、ビール瓶、一升瓶。(瓶は茶色のみ)

笠懸町子ども会上毛かるた大会

参加者募集

今年度の笠懸町子ども会上毛かるた大会は、令和6年1月14日(日)に笠懸公民館で開催されます。

大会に向けて、11月24日(金)から三区公民館で練習を開始しています。大会は個人戦と団体戦があり、練習に参加していれば全員が出場できます。途中からの参加でも大歓迎ですので、歴史を学ぶ機会として上毛かるたをしてみませんか!

練習日:毎週火・金曜日(年末年始を除く)、練習時間:19時から20時まで、練習場所:三区公民館、参加対象:小学生(1年生から6年生)。

参加を希望される方は、保護者の方の送迎で練習日に直接お越しください。

ちょっとピンぼけ

5月8日(月)から新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられ、今年度は多くの行事が再開されています。そこで、地域の活性化とは何か考えてみましたが、行事の再開で経験者の協力体制が重要であることを認識しました。

しかし、経験者は年功序列の意識を持っている様子が見受けられて、初めて行事に参加する協力員は、経験者に何をすれば良いのか聞きにくい雰囲気があるようです。経験者の思いで今後も次世代に伝統を引き継いでいくためには、協力してくれる方々に

言葉ではなく、紙ベースの手順書を残していくことが必要であると思います。

何も知らないとは、5段階に例えたら1から5まで知らない。ほとんど知らないとは、部分的しか知らない。その言葉遣い1つが人を傷つけてしまう。

初めて参加した協力員を大切にすることが今後に繋がると思います。その対策が最大の課題です。行事の開催に向けた協力者を1人でも多く増やしていかなければ、今までの伝統や行事は自ずと縮小されることになるでしょう。